



イギリスのEU離脱

—イギリスのマスメディアの役割とEUへの影響—

2016年6月23日、イギリスは国民投票の結果、僅差でEUから離脱することを決定しました。

この決定の背景にある理由として、イギリス中心部のロンドンとイギリス北部との発展や所得の格差、産業の空洞化、教育や医療制度の問題などが挙げられていますが、イギリスのマスメディアもこの決定に大きく影響したことは否定できません。

本講演会では、イギリスが1973年にEUに加盟して以来、新聞を中心とするイギリスのマスメディアが、EUについてどのように報道してきたのかを分析します。また、他のEU加盟国とは異なり、イギリスではマスメディアが少なくとも過去30年にわたって、EUに関する事実とは異なる情報を報道してきたことが、EU離脱決定に与えた影響について明らかにします。

また、2人のコメンテーターがイギリスのEU離脱による日本や他のEU諸国への影響や、EU域内の改革について議論します。

■日 時：2019年 **7月13日**(土) 13:30~15:30

■場 所：関西学院大学 **大学図書館ホール**

■講 師：**フランシス・ローリンソン氏** (関西学院大学フェロー)

■コメンテーター：**久保 広正 氏** (摂南大学経済学部長)

ホルガー・ブングシェ氏 (関西学院大学国際学部教授)

■参加費：**無料**
(一般参加可、申込手続不要)

■講師略歴：
英国プレストン生まれ
1966年 英国、マンチェスター大学ドイツ言語学卒業
1970年 英国、北ウェールズ(バンゴール)大学ドイツ言語学講師
1973年 ドイツ、マールブルグ大学言語学博士
1973年~2009年 EU欧州委員会に勤務 その間1988年 英国、オープン大学経済学卒業
2011年~2017年3月 関西学院大学産業研究所教授、経済学部客員教授
2017年6月~ 関西学院大学フェロー
現在の研究分野はEUの競争政策、地域開発政策、産業政策、通貨政策など